

上に大きく2分布化している。10年後、20年後は一層の高齢化が進み若人の町ではなくなり、自治会としての体力の低下も懸念される。そのため今すぐにも自治会活動の活性化を求めなければならぬ。

2. 福祉ボランティアへの参加を

平成12年4月に施行された介護保険制度は、行政と公益法人は勿論のこと、民間営利業者に加えてNPO（非営利組織）や公的ボランティアの活動に、その多くが支えられている。桜台における公的ボランティアとして民生委員・児童委員・母子福祉推進員等々がそれぞれ配置され活躍されておられるが人数的に非常に少ない。

高齢者が多数派となる21世紀は既存の団体だけではカバーしきれない。市民の参加は益々歓迎されるだろう。桜台の青年・婦人の方々による民間福祉ボランティアが自然発生的に生れることを望みたい。しかし高齢化の速度は、待望時間を許さなくなっている。

自治会は民間福祉ボランティアの組織化、育成をリードする必要があると考える。該グループの組織化が成った暁には、桜台の独居老人の一声ケア、話相手あるいは老人ホームの慰問や世話活動等で活躍されんことを！

我々の親もそれぞれに生活する地域で、しいては我々自身が公的あるいは該グループの世話になることがあるかもしれない。互助の精神を皆で少しずつ出し合おう。

3. 地域社会との連帯

この度の記念式典において、市原市消防団姉崎支団第8分団へ感謝状を贈呈した。これは地域消防の立場で、桜台が誕生した時から監視をしてくださった行為に感謝の意を表したものだ。

また他の3名の方々も桜台を含む周辺地域と連携して、多年に亘り御活躍されて桜台の名声を高めてくださったことに関しての謝意を表したものだ。

このように自治会活動は地域社会と密接な関係を持っている。そして来る高齢化社会は尚のこと、防災活動に限らず防犯、環境保護は共同歩

調をとらなければならない。地域社会に垣根はない。そのためには日頃の意志疎通、交流の積み重ねである。一たび事が発生した時には、近隣町会との協力、連携プレーを円滑に進めなければならない。また大団地には大団地特有の問題を抱えていることも事実である。近隣の大団地との情報交換をして自治会運営へ反映させることも肝要である。

4. 一層の情報公開を

桜台自治会の大組織を活かすも殺すも自治会役員と会員のやる気に掛かっている。両者をつなぐのは、情報の伝達である。しかし、過去の情報公開のレベルは、決して満足のいかない面も少なからずあった。情報は可能な限り生がよい。そのためにも役員は、班長会の議題は新鮮な議題を揃えて活発な討議、報告、連絡ができるように心掛けなければならない。加えて本年になり、やっと自治会広報誌の発行に漕着けた。これからはこの灯を消さないように会員のバックアップをお願いしたい。そして役員は広報紙をベースに諸々の伝達方法を駆使して、正しい情報をスピーディに会員へ伝達することを肝に銘じなければならない。このように情報を共有化することで、自治会役員と会員の距離が近くなり風通しが良くなると確信する。自治会活動が活性化して、福祉活動や地域社会との連帯への理解が得られて好影響へつながることを期待する。

桜台団地開発時写真集

昭和54年6月竣工

桜台公園

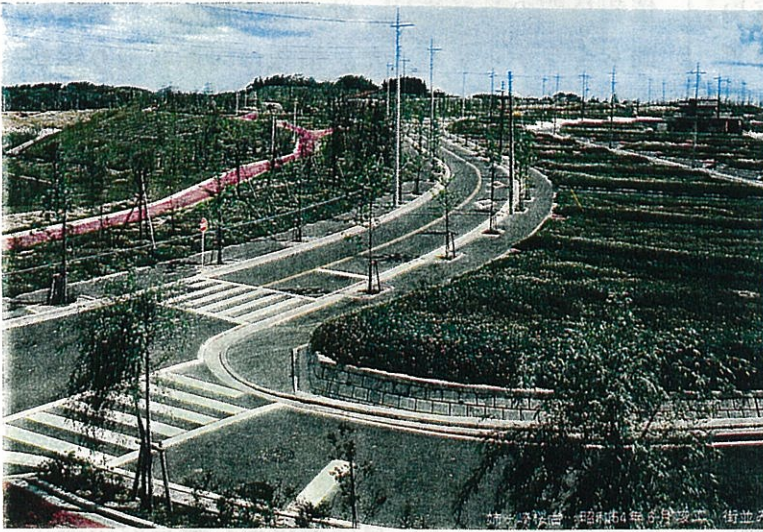


姉崎桜台 昭和54年6月竣工 桜台公園

桜台全体



桜台街並み



昭和57年、有秋南小学校開校

